

“鎌倉楽しむ会”
“令和5年・水無月”

変貌の渋谷～お洒落な広尾～

麻布十番商店街の散策

◆ 開催日 : 令和5年6月24日(土)
◆ 集合場所 : JR 渋谷駅ハチ公広場前
◆ 集合時間 : 午前10時00分
◆ 解散時間 : 午後3時30分(麻布十番)
◆ 参加費 : 500円(資料代、保険料含む)
◆ 飲食費・交通費・拝観料などは個人負担

JR 渋谷駅ハチ公前／スクランブルスクエア／NHK プラスクロス SHIBUYA／
「ヒカリエ」と「東横のれん街」／金王八幡宮／東福寺／氷川神社／
國學院大學博物館／常磐松の碑／白根記念渋谷郷土博物館／温故学会会館／
広尾小学校／プライムスクエア／東北寺／祥雲寺／広尾商店街／

* * *

有栖川宮記念公園／仙台坂／安藤記念教会／麻布氷川神社／長傳寺と一本松
暗闇坂／大法寺／賢崇寺／きみちゃん像／麻布善福寺／(解散)

1, 渋谷ハチ公の銅像



・「忠犬ハチ公像」

渋谷のシンボルであり、現在はその名は世界的に有名になっているようで、来日し渋谷を訪ねる観光客には絶好の待ち合わせ場所となり、次々と「ハチ公像」と一緒に写すシャッターの音が切れることがない超人気の「ハチ公像」です。

・「ハチ公」の飼い主は東京府豊多摩郡渋谷町大向（現：渋谷区松濤1丁目）に住んでいた、東京帝国大学農学部の教授「上野英三郎」であった。先生は大変な愛犬家で、出かける時には渋谷駅までハチ公を伴うことも多かった。しかし、上野先生はハチ公を飼い初めて1年余り経った大正14年(1925)5月脳溢血で倒れ帰らぬ人となってしまった。

・主人の死後、ハチ公は、渋谷区富ヶ谷の上野先生宅に出入りの植木職人・小林菊三郎のもとに預けられる。それから、ハチ公は上野先生が帰宅していた時間に渋谷駅で頻繁に目撃されるようになった。先生が死去してから10年後ハチ公もなくなっていく。

・渋谷駅で行われたハチ公の告別式には、僧侶16人・花環25、生花200、手紙や電報、香典は180、200円を超え、人間さながらの葬儀であったという。

2、渋谷スクランブルスクエア



- ・画像は、令和 5 年（2023）5 月に渋谷スクランブルスクエア 14 階からの渋谷駅前スクランブル交差点の眺望です。
- ・渋谷スクランブルスクエア（しぶやスクランブルスクエア）は、渋谷駅に直結した複合施設型超高層ビル（駅ビル）です。
- ・東急・JR 東日本・東京メトロの 3 社共同開発によって誕生した。1 日の利用者数が 330 万人を誇る渋谷駅に直結し、商業施設、オフィス、展望施設などで構成されている。
- ・2014 年（平成 28）6 月に第一期着工。渋谷駅の真上に位置し、東棟・中央棟・西棟で構成される計画です。
- ・第一期の東棟は高さ約 230M、地上 47 階・地下 7 階建てで、2019 年 11 月に開業し、今回は無料の 14 階を見学します。
- ・最上階の屋上展望台「SHIBUYA SKY」は有料で観光客で大賑わいです。（観覧料 2,000 円）
- ・中央棟・西棟はまだ建設中で、開業予定は 2027 年となっています。

3、NHK プラスクロス SHIBUYA



- ・渋谷スクランブルスクエアの 14 階にあり、NHK の番組やニュース、放送技術などをさまざまな切り口で展示・紹介している無料のスポットです。
- ・番組映像やキャラクターなどを元に制作したデジタルコンテンツ、8K 映像など、先端テクノロジーを活用した多彩な企画展を開催し、ファミリーでのお出かけに新たな発見や楽しみを与えてくれます。
- ・5 月地点では朝ドラ「らんまん」の宣伝が、出演者のサインなどと併せて展示されています。

4、「ヒカリエ」と「東横のれん街」



- ・旧東急文化会館跡地に、2012 年 4 月に竣工建築された複合商業施設。地上 34 階、地下 4 階で、東急百貨店、オフィス、飲食店のほか、ミュージカル劇場「東急シアターオーブ」が入居している。
- ・平成 24 年にはグッドデザイン賞を受賞し、ここから、現在未来の渋谷



駅周辺の大変貌が始まるのです。

- ・地下 2 階・3 階には、昭和 26 年 10 月に日本で初めての「のれん街」で、充実した姿で展開し、イートスペース「SWITCH TABLE」を設け、来店客を楽しませている。

5、渋谷 金王八幡宮



・社伝によれば・・・後三年の役（1083～87）に「源義家」に従って活躍した「渋谷氏」の祖となった河崎基家（渋谷重家）が、寛治6年（1092）現在の渋谷の地に、渋谷城を築き、城内に「渋谷八幡宮」を草創した。

・重家には子がなかなか授からなかったため、八幡宮に祈願したところ、金剛夜叉明王が現れ、お告げをくださり、そのお告げにより一子を授かった。早速、誕生の子には、「金」と「王」の字をいただき「金王丸」と名付けた。

・「金王丸」は源義朝（頼朝の父）、頼朝親子に仕え、「土佐坊昌俊」という武将で、頼朝からは源平合戦の立役者・源義経を暗殺する大任の命を背負って京都に80騎で向かった。しかし、その任は果たせなかったが、活躍は頼朝に認められ、鎌倉の頼朝の御所から「金王桜」が渋谷八幡宮に移植され、年々見事な花を咲かせている。

・その後、八幡社は「金王八幡宮」と称えられるようになった。

・江戸時代には、徳川家の信仰を受け、春日局は神門、社殿を造営したという。

6、東福寺



・承安3年（1173）、天台宗の圓鎮（えんちん）僧正によって、現在地に開創されたと伝えられている。東福寺は開創当初から、隣接する金王八幡宮の別当院で、渋谷区内最古の寺院です。

・寛治6年（1092）、源義家が後三年の役凱旋の途次、この地に赴き、領主・河崎基家が秩父妙見山に拝持日月二流の御旗のうち、月の御旗を請い求めて八幡宮を勧請したという説もあります。そして、そのおり、天慶2年（939）の平将門の乱のとき「源経基」が宿泊したという家を改めて一寺となし、親王院と称して別当寺とした。これが、後に東福寺と名称を変えたという。

7、渋谷 氷川神社



・古くは氷川大明神といって渋谷村の総鎮守であった。

創始は非常に古く、詳らかにすべくものが無いというが、慶長10年（1605）に別当寺である「宝泉寺第百代住持・宝円の著した「氷川大明神宝泉寺縁起」によると、景行天皇の皇子ヤマトタケル命が東征のとき、当地に素戔鳴尊（スサノオノミコト）を勧請し、その後、嵯峨天皇の弘仁年中（810～23）に、慈覚大師（円仁大僧正）が宝泉寺を開基し、それより同寺が別当寺となったと書かれている。

・古来より祭礼として相撲が奉納されており、大井鹿嶋神社、世田谷八幡宮とともに江戸郊外の三大相撲として知られていた。「金王相撲」ともいわれ、江戸表からも見物人が多く集まり、将軍家でも「金王相撲は見に行こう」と言われたと伝えられています。

・江戸時代からの由緒ある東京の相撲場で現代に伝わっています。



8, 國學院大學博物館



- ・ 國學院大學博物館の前身は昭和3年（1928）に当時まだ学生であった「樋口清之名誉教授」により創設された「考古学標本室」が起源です。
- ・ 年間6万人の来館者を誇る無料の博物館。考古学、神道関連を中心に10万点の資料を収蔵。うち約2千点を常設しています。広さ500坪程の展示エリアは、縄文土器や埴輪など展示する「考古学エリア」、神社や祭祀に関する資料を展示する「神道エリア」、そして、大学の歴史や有栖川宮家ゆかりの資料を公開する「校史エリア」の3つに分かれています。
- ・ 考古学の展示資料は、ほとんどが本物。また神職養成機関をもつ國學院大學ならではの神道エリアは必見。
- ・ 日本の歴史や文化に関する最新の研究に気軽に触れられる場所でもあります。

9, 常磐松の碑



- ・ この一帯は幕末、薩摩藩島津家の下屋敷であった。「天璋院篤姫」は、徳川第13代家定公に輿入れのため、国元から出府し生活していた三田・薩摩藩上屋敷が安政大地震で被災したため、当地に所在の下屋敷に居住してから江戸城へ輿入りしていった。
- ・ 「常磐松」の地名の由来は、古くから、この地に「千両の値打ちが付くほどの銘木」と賞賛されていた松の古木「常磐松」があったことによる。もとの漢字は「常盤」であったが「皿は割れる」からと「常磐」に改められたという。

- ・ 常磐松町の由来となった松の木は、大正期の地形図によれば、現在の常陸宮邸内の御用地にあった。この松は見事な枝振りの老木で、その由来には源義朝（みなもとのよしとも・頼朝の父）の側室・常磐御前（ときわごぜん・義経の母）が植えたという説と、世田谷城主吉良頼康（きらよりやす）の側室・常盤が植えたという二説があった。
- ・ しかし、その松は、昭和20年5月のアメリカ軍により空襲の被害で焼失してしまう。戦後になって、旧薩摩藩の士族によって往時を偲び「常磐松の碑」が建てられ松も添えられたという。

10, 白根記念渋谷郷土博物館



- ・ 渋谷区区会議員であった「白根全忠」氏より、土地建物の寄贈を受け「渋谷区立白根記念郷土博物館」として昭和50年（1975）に開館。平成17年（2005）にリニューアルオープンする際に新たに文学館を併設した。
- ・ 渋谷の地理・歴史・民俗など総合的に学ぶこともできる。戦前の住宅再現などのほか、本物の江戸時代の道具や縄文土器に直接触れたり、実際に粘土の上に縄文模様を付ける体験もできる。

11, 温故学会会館・塙保己一史料館



- ・塙保己一は延享3年（1746）、現在の埼玉県本庄市に生まれる。7才の春に、胃腸病が原因か失明してしまう。しかし、向学心が強く手のひらに指で文字を書いてもらい、文字を覚えていく。
- ・15才で江戸へ出、雨富須賀一検校に学ぶ。ここから、数々の先生に学び、明和3年（1766）雨富検校から旅費をうけ、父と一緒に伊勢神宮に詣で、京都、大阪、須磨、明石、高野山など60日にわたって旅をして見聞を広めた。明和6年（1769）には国学者の賀茂真淵に入門しさらに学識を高めていく。
- ・安永7年（1779）、『群書類従』の出版を決意する。検校の職に進むことを願い、天満宮に祈願する。4年後の天明8年（1783）に検校となる。寛政5年（1793）、幕府に土地拝借を願い出て「和学講談所」を開設。準官立機関となった。
- ・ここを拠点として、様々な資料を蒐集し、保己一先生74才の時の文政2年（1819）、ついに『群書類従』666冊を完成させた。34才の時に決心して41年の月日が経っていた。文政4年（1821）2月には総検校になるが、同年9月76才で逝去していく。

- ・温故学会会館は、塙保己一が編纂した『群書類従』の版本（17,244枚）を保管し、一般にも公開している。昭和32年、重要文化財に指定。版本のほかにも、『万葉集』『徒然草』（東京都指定有形文化財）などがあり、約2万枚の版本を保管している。
- ・会館は、鉄筋コンクリート二階建て、正面からは鳳凰が両翼を広げたような形をしており、玄関から右側は1階・2階とも版本倉庫になっている。関東大震災の経験を生かし建築された会館は、すでに80数年を経ているが、空襲にも耐え、ずっしりとした風格は今日でも変わらない。平成12年国の有形文化財建造物に指定されている。

ヘレン・ケラーと塙保己一

埼玉県ホームページより



- ・ヘレン・ケラーは幼少時より、母親から『日本の塙保己一先生はあなたの人生の目標となる方ですよ。』と教えられていました。
- ・彼女は、昭和12年（1937）に初来日した際、渋谷の温故学会を訪れ『今日、こうして温故学会を訪問して先生の像に触れることができましたのは、日本の訪問の中で最も意義深いものでした。使い古された質素な机と、優しく首をかしげた先生の像に触れていると、先生のお人柄が伝わってきて、心から尊敬の気持ちがいっそう強くなり、先生のお名前は、水が流れるように永遠に後世に伝えられていくに違いありません。』と述べています。
- ・また、埼玉会館での講演会では「私は特別の思いをもって、埼玉にやってきました。それはつらい時でも、この埼玉ゆかりのハナワに頑張ることができ、“今の私”があるからです」と話しています。
- ・ヘレン・ケラーは、幼くして失明したにもかかわらず、塙保己一が障害を克服し、希望をもって生き、努力して偉大な学者になったことを、心の支えに、世界の平和に尽力していくのです。

1 2, 広尾小学校



- ・広尾小学校は、関東大震災後の小学校復興事業の末期の昭和7年（1932）に現在地の旧上智町（1996一東となる）に耐火構造でRC造り3階建塔屋付、建築面積約940㎡（約300坪）の校舎として建築されました。
- ・また校舎には、渋谷消防署の上智出張所が併設され、屋上には望楼が設置され、望楼は地上24メートルの高さで眺望がよく地域の住民も昭和22年（1947）まで見守り続けられたという。
- ・戦災を潜り抜け平成28年には100年を迎えた。
- ・また、平成12年には国指定有形文化財建造物に指定されています。

1 3, プライムスクエア



- ・建築主は旧千代田生命保険（現シブラルタ生命）で、地上22階地下3階・高さ101,350Mのビル。住宅およびスポーツ施設棟の恵比寿プライムスクエアシティ、商業棟のプライムスクエアプラザから構成されている。
- ・散策の途次に立ち寄って小休止もできる所です。

1 4, 東北寺



- ・「とうぼくじ」と読みます。臨済宗妙心寺派のお寺です。寛永6年（1629）麻布桜田町に至道無難しどうぶなんが創建。その後米沢藩主上杉定勝の正室・生善院が中興し、元禄9年（1696）現在地に移転してきた。
- ・開基の至道無難と日本橋・白木屋初代「大村彦太郎」が親戚関係にあった縁で墓所があり、『三界萬霊等』と刻まれた塔が、台石には「大村家内中」となっています。
- ・出羽米沢藩、日向佐土原藩の墓所もあり、また、吉良上野介の正室「富子」のお墓もある。

1 5, 祥雲寺



- ・筑前福岡藩2代藩主黒田忠之が、元和9年（1623）赤坂溜池の福岡藩中屋敷（現赤坂2丁目、赤坂ツインタワー一帯）内に、江戸に於ける黒田家菩提寺として、初代長政が生前帰依していた京都・大徳寺164世住持・竜丘宗劉和尚を開山として起立した。
- ・寛永6年（1629）、麻布市兵衛町に新地を拝領し移転、瑞泉山祥雲寺と改称した。寛文8年（1668）、大火で類焼し、郊外下渋谷村の現在地に移転してきた。

- ・江戸時代を通して関東に於ける臨済宗大徳寺派の最高位寺院の触頭（ふれがしら）であった。墓所には屋根で覆われた「黒田長政」の巨大な6メートル程の墓標（渋谷区指定史跡）があり、長政の正室・栄姫はじめ、江戸に於ける福岡藩主黒田家歴代藩主の墓所がある。その他、墓所には諸大名や名士の墓が林立する。
- ・黒田家は徳川将軍家とは7代藩主・黒田治之以降は姻戚となって、松平黒田家となり、江戸時代は目黒の鷹狩の途次には、歴代将軍は度々休養のための来訪を受けている。

広尾散歩通り周辺マップ

